

エリア ウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想はこちらまで Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

「よりよく行動するためには」

峡東教育事務所副所長 澤田 隆雄

新年度がスタートして2ヶ月が過ぎようとしています。それぞれの目標に向かって、日々邁進していることと思います。

「野原があった。そこへ一匹の子牛がやってきた。子牛は気まぐれに、くねくね曲がりながらその野原を歩いていった。」という書き出しで始まる、『子牛の通った小道』(サム・ウォルター・フォス)という物語があります。

「その次の日は羊が来た。羊は、その曲がりくねった小道を、曲がりくねっていると不平を言いながら通っていった。しばらくたって、こんどは旅人が来た。旅人もその曲がりくねった小道を歩いていった。

こうして、草はとれ、土面が顔を出し、曲がりくねった小道ができた。こうなると、村人も、馬車も、犬も、そこを通る。」

...後略...

何百年もの間大勢の人間が、まっすぐに行けばいいものを、もともとここは曲がっているなどということ曲がった道を通ってきた。どうして曲がったのかと思ってよくよく昔をたずねたら、一匹の子牛がヒョコヒョコいいかげんに歩いたにすぎなかったという話です。

この話のように、私たちは往々にして、過去において決まり切った一つの方法、先人によって与えられたものが絶対であると思いこんでいることが多々あるのではないかと思います。

さて、私たちは日々さまざまなことを判断し決断して、行動しています。大は世界や日本の政治や経済のことから、小は百貨店での服装選びまで。

しかし、いざその立場や場面になると、『子牛の通った小道』の話のように、先入観や思いこみにとらわれたり、また現実の社会にはさまざまな矛盾が満ち満ちていて、どのように行動すべきなのか、適切に対処できなくなってしまうのではないかと思います。

それでは、行動するために最も大切なことは何でしょうか。それは、判断し、決断し、行動するための自分自身の原理原則を持つことだと思います。

そのためには、まず、さまざまなことを知らなければなりません。そして、さまざまな知識を学ぶだけではなく、その学んだ知識をもとに自ら考えることが重要です。自ら考えることで学んだことが本当の知識となっていくます。

さらに、自ら課題(問題)を持ち、その課題(問題)の解決のために考えることが自分自身の行動原則を持つことにつながっていきます。

「学ぶこと」「考えること」により、ものごとの本質を理解することができるようになり、よりよく判断し、決断できるという原理原則が築かれていくと思います。

「日常の忙しさ」という言葉に逃げることなく、私たち一人一人が自分自身の原理原則を持って行動していくために、学び、考えていくことが今まで以上に大切になってくると思っています。



小学校英語科「教育特区指定」

～山梨の教育振興プラン「確かな学力の育成」～

山梨市立岩手小学校

授業のようす

“river, library, police-station, . . .”, “rock! paper! scissors! go!, rock! paper! scissors! go!”という子どもたちの声が教室いっぱいに響いています。5月18日(月)4校時, 岩手小6年生の英語の授業です。

担任の那須美佳先生, ALTのエミリー先生, 英語学習ボランティアの野沢浩代(JTE)さん, 3人の息の合った指導の下, 6年生13人が2手に分かれて英語ゲームをしているところです。

「川」「図書館」「警察署」などのピクチャーカードが机の上に貼ってあって, 左右2手に分かれた子どもたちが英語でその絵を答えていきます。両者がぶつかったところで「じゃん, けん, ぽん」。勝った人は前に進みます。最後のピクチャーカードまで早く行き着いたチームの勝ち。

時折, ゲームの合間に英単語をエミリー先生に合わせて復誦するのですが, ためらいなく明瞭に発せられる子どもたちの発音が心地よく聞こえます。



エミリー先生に合わせて, "library, school, "

本年度, 岩手小は文科省の「教育課程特例校」の指定を受けて, 1年生から6年生まで年間35時間(1年生は34時間)の英語科を新設し, 外国語活動に重点を置いた特色ある学校づくりに取り組んでいます。先に, 本校は平成18年度から19年度, 文科省の「小学校英語活動地域サポート事業」の認定を受けて, 小学校英語活動を軌道に乗せるための研究を開始しており, 子どもたちに英語活動に対する興味, 関心, 意欲を喚起させる土壌を涵養してきました。

教育課程への位置付け

岩手小では英語科を新設するにあたり, 教育課程への位置付けを次のように工夫しています。1年生, 2年生は生活科から20時間, 総授業時数の余剰分から各14時間, 15時間を, 3年生～6年生は総合的な学習の時間から35時間を充てています。

英語科の学習の中に, 外国の文化に関心を持ち, 自ら課題を見つけ, 問題を解決しようとする学習活動や, 発表などの学習活動を積極的に取り入れることで, 生活科や総合的な学習の時間を削減した分の保障を考慮しています。

学習ボランティア(JTE), ALTエミリー先生

毎週月曜日, 2年生, 4年生, 6年生の3時間の授業に, 野沢さんがボランティアで英語学習指導に参加しています。平成20年度山梨県の教育施策「やまなし学校応援団育成事業」を受けて, 山梨市では理科活動, 英語活動, 図書館活動, 部活動の各分野で, 学習支援にボランティア・メンバーを派遣していますが, 野沢さんもそのうちの一人として活躍しています。

ALTのエミリー先生は, 昨年8月, サンフランシスコから来ました。昨年度は主に中学生の指導を担当してきたそうです。岩手小児童の印象を尋ねると, とても反応が良く元気で, 教えるのが楽しいということでした。

課題

最後に, 英語を教科として指導する上での課題を榊原教務主任に尋ねたところ, 次のような話をしてくれました

- ・学級担任, ALT, JTEの三者の授業の打ち合わせ時間の確保。
- ・英語活動が教科になったことによる評価, 教材の精選, 教育課程等についての検討。中学校の前倒しにならないようなライティング, リーディングの指導について。
- ・学年に適した教材・教具の作成。ほとんど手作りしているが, ALT, JTEと学級担任が共同してどのように作っていくか。



英語で何て言ったっけ?

「子ども可愛くば・・・」

「可愛くば、2つ叱って3つ誉め、5つ教えてよき人にせよ」という昔からの格言があります。子育てでは、叱ることとほめることとの間に適度なバランスを取ることが大切だということです。

子どもはともかくほめていればよい子に育つという風潮がありますが、果たしてそうでしょうか。この格言からすると必ずしもその通りには行かない、叱りすぎが問題であるようにほめすぎもまた問題であることを示唆しているように思われます。

「忘れ物が多い」、「計算ミスが多い」、「遅い」、「声が小さい」など、子どもの悪いところだけを見てそこを直すという視点から、子どものよい面に目を向けるという転換は大切です。

しかし、子どもをほめることが適度であれば子どもの成長促進になりますが、親が子どもをほめすぎた場合、子どもはほめられようと一生懸命になります。そして、子どもは大人の希望に合わせようとして背伸びをしてしまいます。

そのような子どもは表面的には早く成長して、どんどんよい子になっていくかのように見えますが、ほめすぎは聞き分けがよく、わがままを言わず、妙に大人びた子どもを作り上げてしまうことがあります。

子どもなのに子どもらしくない、あまりに大人の願い通りに育てられた子どもは、あるとき突然に自分が背伸びして生きていることに矛盾を感じ始め、成長できなくなったり成長をやめようとしたりすることになります。無理して生きていることに息切れを感じているのかもしれません。

そうしたときに、それまでよい子だったはずの子どもが、家庭内暴力やひきこもりといった行動を取って周囲の大人を驚かせることとなります。

特に、親は子どもの急激な変化に戸惑いその原因がつかめず慌てますが、そんな時、わが子が「よい子」でいるために無理をしていなかったか、ストレスを抱えていなかったかどうか思いをめぐらしてみる必要があります。

子どもはもともと、時間をかけてゆっくりと成長していくものです。長い時間をかけているな経験を重ね、その中から善悪の判断力を身に付けたり自分の歩むべき道を見つけていきます。

その成長の過程は決して安楽なものではなく、失敗をくり返し、時には大人から叱られることによって矯正されなければならない場合もあります。トラブルやショック（緊張感）を乗り越えようとするときこそ、試行錯誤や努力、忍耐力が養成される機会であると捉えたいと思うのです。

その成長の過程がほめすぎによってショートカットされてしまうと、子どもは人生経験の不足状態に陥ってしまいます。経験不足の子どもは、これまでとは状況の違うものに出会ったとき、途端にどのように対処していいかわからなくなってしまうのです。

失敗したり嫌なことを経験したりすることによって、子どもは我慢することをおぼえます。そして、自分の力で乗り越えた経験が物事の変化にうまく適応できる力を育てるのではないのでしょうか。

昨今、子どもがキレやすくなったり、少しのことで絶望して自殺したり、精神を病んでしまうのは、失敗したり叱られたりする経験不足、試行錯誤や我慢することの経験不足と関係があるのかもしれない。

ほめすぎず、叱りすぎず、時間をかけてバランスよく子育てをすることが大切です。



子育てにセオリーは有って無いようなものです。ある子どもには当てはまっても他の子には全く合わないことがあります。時期と場合もあるでしょう。同じ親から生まれたのに、兄弟でさえ異なります。

ある保育園の園長先生から聞いた言葉です。「子どもは木の葉っぱと同じだよ。同じ木の葉なのに、高い枝の葉と低い枝の葉、日当たりが良い南の葉と日が当たらない北の葉、風の当たり具合などによって、みんな一枚一枚違うんだよ」・・・と。

「地域における学校支援」ボランティア研修会

～山梨の教育振興プラン「地域全体で取り組む教育の推進」の具体化～

地域における学校支援として「やまなし学校応援団育成事業」や「放課後子どもプラン推進事業」が現在展開されています。この事業にボランティアとして活動をしている方々を対象として山梨市，甲州市，笛吹市でそれぞれ独自に研修会を行いました。

山梨市では，栗林賢治さん（山梨北中学校ブロックコーディネーター）から，理科学習支援の現状や今後の展開について話がありました。その後，甲府市の放課後子どもプラン推進事業に関わっている塩崎洋子さん（羽黒ほっとサロン」代表）から，「羽黒ほっとサロン」の取り組みについて話がありました。

甲州市では，木村清一さん（桐蔭横浜大学）を講師に「学校支援ボランティア事業のあり方について」という演題で講演を行いました。全国各地の具体的な実践事例や市独自の学校支援ボランティアのあり方を探り実践していくことの重要性など，今後の方向性に大きな参考となる話がありました。

笛吹市では，「放課後子どもプラン推進事業」で富士見小学校と石和西小学校で支援活動をしているNPO法人「学びの広場ふえふき」の会員を対象に，日赤山梨支部の花村さんを講師にAEDを使った心肺蘇生法の演習を行いました。



木村先生 勝沼市民会館 2/18



スローパリオにて 2/23

どの研修会でも，参加者から，「学校支援をしていく必要性を感じた」，「ボランティアとして積極的に活動したい」，「今後も研修会をしてほしい」などの感想が出されました。

「やまなし学校応援団育成事業」，「放課後子どもプラン推進事業」は，学校と地域との連携体制をつくって様々な方面から教員の支援を可能にし，教員が子どもと向き合う時間の拡充を図ることをねらいとしています。この取り組みを今後さらに発展するためにもボランティアの協力が必要です。地域住民の方々の積極的なご参加をいただきたいと思います。

山梨の教育振興プラン 「ふるさとの自然や人々とのふれあい」

武田勝頼公まつり 【大和小，大和中，塩山中】

4月26日（日），第44回甲州市「ふるさと武田勝頼公まつり」が大和中中学校を会場に開かれました。祭りには，大和小，大和中，塩山中の児童生徒も多数参加し大いにまつりを盛り上げました。児童生徒の活躍のようすをスナップショットでお伝えします。



大和小5，6年生と大和中1年生による「甲斐天目山勝頼公太鼓」。会場から大きな拍手が送られました。



大和中2，3年生女子による清楚で優美な「巫女の舞」。



塩山中マーチングバンド部です。創部2年にして，西関東大会金賞の実力。会場から“アンコール！！”の聲が上がりました